創

—第59回—

《題字　長野恭紘》

そのあとに、なにが残るか

昨年10月、11月に全国で行われた二つの市長選挙のその後の展開を興味深く見ていました。

いずれの選挙においても新人が現職を破り勝利。勝因の大部分は、公約で「新型コロナ対策でとにかく5万円を市民に配る」というものでした。実際投票の時に「5万の人はどっち？」と多くの方が聞いてきたそうです。

しかし結果としてこの公約は議会に否決され、いまだに実現されていません。それどころか議会に提案されるまでに2万円に減額されていたり商品券に姿を変えていて、期待した市民の気持ちを踏み躙（にじ）るものとなっています。

では議会が間違った判断をしているのかというとそうではありません。配る財源が今まで積み立ててきた基金を全て取り崩す、あるいは他の事業費を全てこの5万円のために使うとなれば議会も簡単に賛成するわけにはいきません。

お二人とも政治経験豊富な方の様ですから、このような事は想定できたはず。

実現できない場合どう責任を取るつもりだったのだろう、市民の皆さんはこれで終わりで納得するのだろうか、と複雑な気持ちになります。

希望を託して投票し当選した人が目玉の公約を守らない。そのあとに、一体何が残るか。

市民の皆さんが後悔と虚しさを抱えないため、良い教訓として全身全霊で政策の実現のために全力で頑張ります。

別府市長
長野　恭紘

フォトべっぷ

活躍に期待—2月8日～17日、ラグビー7人制男子日本代表第3次オリンピックスコッド別府合宿が実相寺多目的グラウンドなどで行われました。今後、合宿や遠征を繰り返しながら、オリンピックに出場する最終メンバーが決定します。

防火防災—新春恒例行事の別府市消防出初式は、今年は消防関係者だけで開催し、表彰式のみを行いました。式典では、消防団員勤続15年8人と10年13人の計21人が表彰され、「災害のない明るい年」になることを願い式典を締め括りました。

はなれていても、あったかい。—日本航空が「また、みんなで元気に温泉に来てほしい」という願いを込めて、大分空港を出発するお客様に対し、「ソーシャル・ディスタンシング」の啓発を呼びかける横断幕を掲げながら、お見送りを行っています。

最高賞に輝く—「第60回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト」で、市立鶴見台中学校2年の髙山陽菜（ひな）さんが特賞の「日本国際連合協会会長賞」を受賞しました（特賞 / 応募1,242作品中4作品）。